



問 今議員 10月1日より、新型コロナウイルスの定期接種が始まりました。自治体によって違うワクチン接種の自己負担額と接種の現況をどう考えているのか。

『医療機関で自由に料金設定できる 深浦診療所は20000円』
新型コロナウイルス定期接種
自治体で違う
ワクチン接種の
自己負担額



※高齢者や基礎疾患がある方：65歳以上の方、60歳から64歳までの一定の基礎疾患を有する方。若い世代など定期接種の対象にならない人は、任意接種のため、原則 全額負担。

答 町長 令和6年度から一部自己負担又は対処外の方は、全額自己負担となった。予防接種は、保険外診療なので、医療機関で自由に料金設定ができることから違いがある。特別臨時接種から外れたことで接種控えの発生や、特に高齢者や基礎疾患がある方の重症化を回避するため、国が設定した助成額83000円に、町が50000円を上乗せし、合計133000円を助成することで予防接種を推奨している。深浦診療所での予防接種の自己負担額は、接種費153000円から助成額133000円を控除した20000円となる。なお、深浦診療所で10月から11月までの2か月間で、新型コロナウイルス予防接種者は666人。

問 今議員 12月20日を以って、吉田町長は退任されますが、就任当初から目指したことが、忘れられない出来事、新町長に期待したいことは。

答 町長 目指したことは、工藤議員にお答えしたとおりで、町長というのは、前町長からの引き継ぎ事項が結構あり、それが分かるのが、2、3年後に実感してくると思う。今後とも、やはり町の中心は町民。新町長には、町長になつたと言えども、町民目線を失わないで頑張っていたきたい。町長を育てるのは議会です。性格的にみて私と似たような、短気なところもある。若い力を投入しながら、今までの社会経験、やりたいこと等々もあると思うが、なかなか、できないかもしれない。あと、行政は、指摘のとおり民間だったらもうちょっとスピードアップしな



▲初登庁し花束を受け取る平沢町長



▲花束を受け取り退庁した吉田前町長

吉田町長退任
新町長への期待は
『町の中心は町民
町民目線を失わないで』

がらでできることが多々ある。ただし、行政は、町単独でできることはかなり限られており、上部団体の許可等をとって財源までとなると、相当綿密な計画の中で、歯がゆいところがある。新しい町長が来てからの雰囲気や町づくりなど、町民の期待度などを考えると、私が続けるより数倍いいんだと思う。

定例会を傍聴しませんか

定例会は、誰でも傍聴することができます。町政に関する予算や条例の提案、議員の質問・質疑、採決などが行われます。次回は、3月上中旬に定例会を開く予定ですので、皆さんの傍聴をお待ちしております。



つばやき
農業は食を支える大切な役割



農業の促進計画
風合瀬地区の
農地整備の進捗状況は

問

答 事業費ベース56.3%
区画整理ベース59.6%



質問者の動画が視聴できます。

こん かつよし
今 勝吉 議員

問 今議員 ①風合瀬地区で農地集約・大規模化の整備を推進している。その整備の進捗状況と将来の構想をどう考えているのか。
②本町にはすでに農地バンクがあり、いつでも農地を紹介できる体制にある。県は「農地情報サイト」を本年度中に運用開設するため市町村と調整を行っている」としているが、今後どう連携して情報発信を行うのか。

答 町長 ①本事業は「農業競争力強化農地整備事業」として、令和3年度から令和8年度までの6か年事業で、青森県が実施主体で進めている。事業の進捗状況は、令和6年度までの事業費累計額13億5千7百万円、事業費ベースで56.3パーセント、区画整理ベースでは59.6パーセント。また、将来構想については、計画段階では水稲40.8ヘクタール、飼料用米20ヘクタール、大豆やトマト、かぼちゃ、長ねぎなど畑作物合わせて13.1ヘクタールを計画しているが、事業完了後に換地処理を行い、そのうえで耕作者の話し合いによって、再度協議される。



※農業競争力強化農地整備事業：国の事業で、農地集約の加速化や農業経営規模の拡大に資する農地の大区画化・汎用化等の基盤整備及びこれに関連する事業を行うことが目的。風合瀬地区のは場整備は、総区画整備面積は約76.9ヘクタール、水田における一区画平均面積50アール、総事業費24億9000万円と見込んでいます。事業費の負担割合は国55パーセント、県27.5パーセント、町10パーセント、受益者7.5パーセント。

②インターネット上で自ら農地情報が取得できる「農地情報サイト」は、3月頃の運用開始予定。市町村としては、売りたい、貸したいという農地の情報をサイトに掲載するので、農業委員や農地利用最適化推進委員による情報収集、また当該サイトが有効に活用されるよう広報誌などで積極的に周知していく。

旧木造高校深浦校舎
どのような
有効活用を考
えているのか
『公民館、文学館、
資料館の集約を基本に
取り組む』

問 今議員 県は、令和7年2月21日までの工期で、普通教室棟外解体工事を行っている。町に引き渡された後、どのような有効活用を考えているのか。

答 町長 深浦校舎利活用プランに基づき、公民館、文学館、資料館を集約し、「生涯学習の拠点施設」、「読書活動推進のための図書館施設」、「スポーツ活動推進のためのスポーツ施設」、「子ども達が集える遊びの場」として活用することを基本に取組を進めている。

